

環境大レポート

第42号

Mar. 2025

K A N K Y O D A I R E P O R T



特集

私たちこんなことやってます!

2 3

環境大生の日々

人事報告
着任挨拶・退任者紹介

4

キャンパストピックス

第21回 環大コンペ結果発表
ルート29ヶ所地紹介
SDGs共創プロジェクトの動き
教員エッセイ

4 5 6

研究紹介

多様性を受容するデザイン提案の試み
環境学部 老田 智美 准教授

6

国際交流

カッセル大学(ドイツ)への語学研修プログラム

7

就職支援

2024年度 就活結果(内定先)/就職支援センター

8

クラブ&サークル活動・資格取得

防災サークル・音創部/資格取得

9

プロジェクト研究

クレイメーションを作ろう

10

環謝祭

第24回 環謝祭を開催しました

表賞・採択関係

情報教育プログラムが文部科学省の認定を受けました

キャンパスニュース

TUESレポートより

11

お知らせ

PRコーナー/2024年度 学部・大学院学位授与式/2025年度 前期開始日程
授業料の納入について/決算報告

12

環境大生の日々

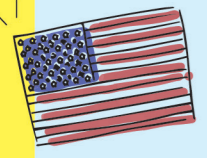
私たちこんなことやってます!



学生同士でグループワーク

※1フィンランドとの学生相互派遣事業
脱炭素社会実現を目指す上で重要な「食の循環」をテーマとして、日本と、脱炭素及びSDGsにおける先進自治体であるフィンランドの両国の学生らがお互いの国を訪問し、テーマに関連する施設や取組を視察し、意見交換等を行い、地球温暖化対策や脱炭素社会実現に向けた取組を担う若きリーダーの育成を行うことを目的とした事業です。

アメリカに行ってきました!



本学では、相互交流協定を結んでいる海外大学と学生交流プログラムを実施しています。その中の一つ、セントラルクリスチャンカレッジオブカンザス(アメリカ)とは、学生交流と異文化体験を主とした相互派遣方式のプログラムを展開しており、交流や文化体験を通じて、相互理解を深めています。今年、実際に現地に行ってきた学生に質問してみました!

Q. 留学先と留学した時期や期間を教えてください

アメリカ カンザス州にあるセントラルクリスチャンカレッジオブカンザス(CCKC)に、8月下旬から9月下旬までの1か月間留学しました。

Q. 留学しようと思った理由は?

様々な国の人と仲良くなりたかったからです。1年生の春休みにオーストラリア研修に参加して、英語でコミュニケーションをとることの楽しさに気づき、もっとたくさんの人と話してみたいと思うようになりました。

Q. 留学先でのエピソード・印象に残っていることを教えてください

寮のルームメイトと隣の部屋の友達と一緒にお菓子パーティをしたことが印象に残っています。日本のお菓子とアメリカのお菓子を一緒に食べなが



weekend! ホストファミリーとのひと時

ら、地元を紹介をしあったり、家族の話をしたり、恋バナをしたり、とても楽しい時間を過ごすことができました。みんな日本のお菓子を気に入ってくれて、最後に「めぐみに会いに日本に行くね」と言ってくれたことが一番嬉しかったです。

Q. 留学してみて、自分の中でどのような変化を感じていますか?

人とのつながりをより大切にできるようになりました。留学中たくさんの方の助けのおかげで充実した留学生活を送ることができ、今までに知り合った人、友達を大切にしようという思いが強くなりました。日本で出会った人や海外で出会った人、色々な人とのつながりを大切にしていきたいです。

週末スポーツ観戦!



環境大で気に入っている場所は? やぎ柵の周りがお気に入りの場所です!



佐山愛さん 環境学部2年 和歌山県出身

フィンランドとの学生相互派遣事業を実施しました!

Q. この事業に参加した理由は?

2029年のカーボンニュートラル達成という先進的な目標を掲げるトゥルク市への派遣事業に魅力を感じて参加しました。また、脱炭素社会の実現を目指す海外の学生との意見交換にも関心がありました。

Q. フィンランドではどのようなことをしてきましたか?

トゥルク市のエリナ・ランタン副市長への表敬訪問や、トゥルク大学やトゥルク応用科学大学の研究紹介、民間企業への視察などを行いました。いずれも「食の循環」に着目した脱炭素に向けた取り組みでした。プログラムにはプレゼンテーションチャレンジが設定されており、ペーカリーやマーケットから発生するフードウェイストの活用方法について現地学生と話し合い、事業者へ提案しました。



農園でのフィールドワーク

環境大で気に入っている場所は? 講義棟と教育研究棟を結ぶガラス張りの渡り廊下です!



下江信之介さん 環境学部4年 鹿児島県出身

Q. 現地でのエピソード・印象に残っていることを教えてください

トゥルク大学のフラヴォリアという研究プラットフォームが印象に残っています。レストランやカフェ、テストラボが併設され、消費者行動や多感覚体験に関連する研究が行われていました。具体的には、レストランで使用するトレイの下にチップが搭載されており、どの料理を何グラム取ったかを計測し、廃棄物削減につなげる取り組みが行われていました。大学での研究を社会実装する仕組みや、所属や専攻の垣根を超えて実践的に研究できる環境の重要性を実感しました。

Q. この経験を通じて、自分の中でどのような変化を感じていますか?

自分の視野の狭さに気付くことができました。学生同士の意見交換では、5カ国(日本、フィンランド、中国、ベトナム、ウズベキスタン)の出身者が参加しており、文化や価値観の異なる意見を聞くことができました。さらに、プレゼンテーションチャレンジではチーム内に日本人は自分だけだったので、日本の当たり前がマイノリティとして捉えられる空間は刺激的でした。時には海外の取り組みに目を向けることも大切だと強く感じました。

環境大で気に入っている場所は? 柳ゼミ室は、私の第2の家です!



荒木凌さん 経営学部4年 兵庫県出身

公認会計士試験、現役合格!

本学経営学部4年 荒木さんが、令和6年公認会計士試験に合格しました。本学では、在学中の合格は令和4年度に続き、2人目の快挙です。合格がどんな気持ちだったか尋ねてみました!

Q. 合格を知ったときの気持ちを教えてください

最初は、信じられませんでした。夢を見ているかのような感覚。その後、自分が合格していることの実感が湧き、これまでの努力が報われたと思ひ、涙が止まりませんでした。人生で一番嬉しかったです。

Q. そもそも公認会計士試験を目指したきっかけは?

高校生の時に公認会計士としてスタートアップ支援をされている方の新聞記事を見ました。その時に、自分もこの方のように公認会計士として、企業の経営に関わり、経営者の夢を叶える手助けをしたいと思ひ、公認会計士試験を目指しました。

Q. 4年間、ずっと勉強に取り組み続けられた秘訣を教えてください

自分を信じることです。今、どれだけ勉強が辛くても、ここを乗り越えたら絶対に公認会計士になることができると信じていました。また、辛い時に勉強を辞めたら、ここまで必死になり、公認会計士になることを夢見て勉強してきた過去の自分を裏切ることになるので、その過去の自分を裏切ることはできませんでした。絶対に公認会計士になることができると自分を信じ続けたことが、ずっと勉強に取り組み続けられた秘訣です。



学長への報告会

Q. 卒業後の進路は?

太陽有限責任監査法人大阪事務所に入所します。

Q. 後輩に向けてひとことお願いします!

夢に向かって努力をし続けて欲しいと思います。どんなに辛くても、諦めないでほしいです。無駄な努力はありません。必ず報われる時が来ます。未来の自分を助け、支えるのは今、必死で努力している自分自身です。頑張れ!

荒木さんの在学中のあゆみ	
2021年(1年次)	日商簿記検定3級に合格、同年に簿記2級にも合格
2022年(2年次)	日商簿記検定1級に合格
2023年(3年次)	公認会計士 短答式試験に合格
2024年(4年次)	公認会計士 論文式試験で最終合格(合格率7.4%の狭き門を突破!)

委員会 学生魅力づくり

本学では、学生たちの多方面での能力の成長を願い、これまでの取り組みに加えて様々な企画を考え実践しています。その中の一つに、主に1年生を対象にした「学生による魅力づくり委員会」という団体を作り、学生たちに自主的に参加してもらおう企画があります。委員の学生たちの感覚で、大学に楽しく魅力ある新しいイベントや企画を作り出してもらおうという試みです。今回は魅力づくり委員会のメンバーに活動の様子を尋ねてみました!

Q. どのような活動をしているのですか?

(二人)環境大学の魅力を「地域の方々」や「入学を考えている方」、「在学生」にもっと知ってもらうため、新たな魅力の創造やより良い大学生活につながる企画を考え、大学に提案して実行しています。例えば、学生や教職員が特技や趣味について発信する「環境大ぶらっぺいと博物館」というブースを設置しました。これは、訪れた人に新たな気づきや相互理解のきっかけを提供することを目的としています。

Q. この委員会に入った理由・きっかけは?

(永)大学生になって初めて県外(鳥取)で生活するにあたり、自分は鳥取でなにができるんだろう、なにがしたいんだろうという不安があったので、この委員会に入って自分の力を試そうとしたのがきっかけです。
(池)「大学の魅力をつくる」という言葉に惹かれたことがきっかけです。環境大学のサークルや個人で活躍している方の魅力を外部に発信出来たらと思い、日々活動しています。



環境大で気に入っている場所は? 情報メディアセンター前の屋外スペースです!

Q. 委員会に入ってよかったこと・楽しいことを教えてください

(永)大学生活を送る中で、「ここが〇〇になれば、もっと楽しくなるのでは?」、「ここは何もないけれど、有効活用できるのでは?」と考えるようになり、さまざまなアイデアが浮かぶようになりました。また、これまで経験がなかったチラシやサインの作成ができるようになりました。新しいことを経験し、成長できる点が魅力づくり委員会の良さだと思います。
(池)私も同じく、委員会での活動で新たな発見から成長できる点が魅力だと思います!

Q. これからやってみたい・やる予定の取り組みは?

(二人)今後やってみたいのは、鳥取にたくさんある空き家の利活用と学生生活の充実を結びつける取り組みです(現在構想中)。また、情報メディアセンター前(屋外)に、外でも友達と楽しく座って話せる場を作る案を検討しています。



池田さくらさん 環境学部1年 群馬県出身

ぶらっぺいと博物館



「生物」環境学部

永石眺也さん 経営学部1年 福岡県出身



着 | 任 | 挨 | 拶

2024年9月より、1名の教員が着任いたしました。



2024年9月に経営学部に特任教授として着任いたしました。経営情報論、経営情報システム、情報産業論の講義とゼミを担当いたします。2026年3月までの任期となり、短い期間ですが本学に何かしらの足跡を残すことができたらと考えています。本学に着任する以前にも、いくつかの大学に勤務しておりました。その経験も踏まえ、オリジナリティを持って学生に向き合いたいと思っています。学生にとって大学生活は、例えば一人暮らしを始めた、一生の友人ができたなど思い出に残る、人生を豊かにする素晴らしい期間でもあると思います。学生には本学で充実した学生生活を過ごしてほしいと願います。私の学生に伝える言葉がありますので以下に記します。

楽しくなければ大学じゃない、楽しいだけでも大学じゃない！

短い期間ではありますがどうぞよろしくお願いたします。

経営学部 **藤木 善夫** 特任教授

退 | 任 | 者 | 紹 | 介

2025年3月を以て、次の2名が退職いたします。



環境学部
サステナビリティ研究所 所長
田島 正喜 教授

— 本学での略歴 —

2017年4月 環境学部教授
2020年4月 サステナビリティ研究所所長



環境学部
浅川 滋男 教授

— 本学での略歴 —

2001年4月 環境情報学部教授
2009年4月 大学院環境情報学専攻長
(～2012年3月)
2012年4月 環境学部教授

★ Campus Topics 第21回環大コンペが開催されました

2024年12月4日に第21回環大コンペ最終審査を本学で実施しました。環大コンペは「公立鳥取環境大学を支援する会」主催のイベントで、大学生活の向上と地域社会に貢献する企画を学内から募集し、優秀企画(団体)を表彰する伝統ある学内コンペです。今年度は8企画の応募があり、書類審査を通過した6団体から、以下の通り入賞企画が決定しました。審査では、本学構内の哺乳類・鳥類のモニタリング調査、境港市の外国人誘致への提言、鳥取県内のチョウ生息調査など、環境大生らしい様々な視点から地域課題の解決を提案していました。

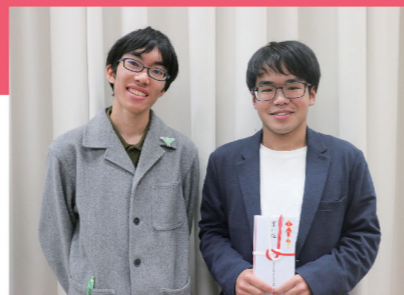


▲ 当日の様子 生物部 環境大学の生物モニタリング調査(哺乳類・鳥類編)

【最優秀賞】TUES地球環境を考える会 びおとぶ
「環大にオアシス!?
～ピオトープを作る意義～」

【第2位】生物部
「鳥の窓ガラス衝突を防げ!
ガラス張り渡り廊下での対策の提案」

【第3位】生物部
「環境大学の生物モニタリング調査
(哺乳類・鳥類編)」



▲ 最優秀賞「TUES地球環境を考える会 びおとぶ」

【第4位】ヤギ部
「ヤギ部のダンニ対策」

【第5位】環境学部 2年 三浦 達也
「鳥取県内におけるチョウ類の調査」

【第6位】環境学部 2年 檜山 琴音
「鳥取を外国人観光客が楽しめる観光地に」

★ Campus Topics 本学が映画『ルート29』のロケ地になりました

姫路と鳥取を結ぶ国道29号線を舞台にした、綾瀬はるかさん・大沢一菜さんが出演の映画『ルート29』が2024年11月に公開されました。本学もロケ地の一つになっており、キャンパス内(中庭等)で撮影が行われました。



▲ ©2024『ルート29』製作委員会



▲ ©2024『ルート29』製作委員会

Information

作品名:『ルート29』

公開日:2024年11月8日(金) 全国公開

詳細については映画公式サイトをご覧ください。

〈リンク先〉<https://route29-movie.com/>



★ Campus Topics SDGs共創プロジェクトの動き

SDGs共創プロジェクトは、本学学生が教員の指導のもと、県内事業者と協力して環境問題解決に向けて取り組むプロジェクトです。今年度は6つの企業課題に対して学生たちが調査研究を行っています。その一例を紹介します。

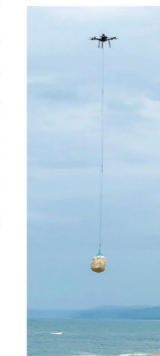
堀ゼミ

AIを使って工場内の電力消費量を見える化する研究を進めています。温度、湿度、CO₂濃度、騒音などのデータを収集し、電気需要を予測してCO₂濃度が重要な要因であることを明らかにしました。今後は、予測精度を高め、省エネやピークシフトに役立てる予定です。



佐川ゼミ

ドローンを活用した海岸漂着ゴミの回収方法を研究しています。ドローンと衛星データを組み合わせて効率的にゴミを収集する技術を開発中です。10月には企業が開発したドローンが実際に約20kgのゴミ回収を行う様子を視察しました。



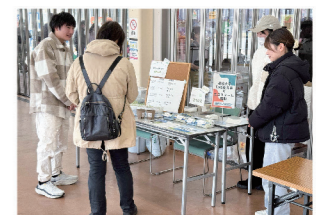
門木ゼミ

建設現場でのCO₂排出量の算出モデル構築に取り組んでいます。道路建設現場を視察し、使用機械や燃料種別などを確認して算出用データを収集しました。また、企業の担当者からICTを活用した効率的な機械運用などCO₂削減につながる取り組みを学びました。



学生EMS委員会

刈草から作った完熟堆肥のブランド化と販路開拓に取り組んでいます。堆肥を消臭剤として活用できないか判断するため、においの評価方法を学びました。また、消費者向けイベントで堆肥を使った野菜栽培キットを販売し、刈草堆肥の新しい売り方に挑戦しました。





組織を守り発展させる リーガルマインド

経営学部
中山 実郎 教授



「良き法律家は悪しき隣人」(A good lawyer is an evil neighbor)、欧米各国に古くから伝わる法格言ですが、連載漫画のタイトルとして記憶されている方も多いのではと思います。何かといえば、「法律を示せ、証拠をみせろ」と理屈っぽいから、法律家とはかかわりたくないという心情の表れでしょうが、当たらずといえども遠からずということかもしれません。しかし、論理的思考に優れ、弁が立ち、抜群の交渉力を発揮する、このような人材がいつの世も重用されるのも事実です。組織のガバナ

スにおいて、コンプライアンスやプライバシー保護に重きを置く企業は非常に多いと思います。今や、リスクマネジメントにおける最優先事項と位置付けられます。そして、企業経営を語る中で、アクセルとブレーキのたとえがよく登場します。会社を発展、成長するための原動力をアクセルとすれば、やらないこと、やってはいけないことを定める、ブレーキがあるからこそ、安心してアクセルを踏むことができます。このブレーキの礎となるのは、リーガルマインド(法的思考力)に他ならないでしょう。試験

であれば、学んだ法律の条文や判例の知識でなんとか乗り切ることが出来ます。しかし、実社会では、具体的で効果的な対応策が求められます。問題の解決へと導いていくセンス、これこそリーガルマインドの本質ではないかと感じています。職場での「良き隣人」になるべく、リーガルマインドを育む、経営学部における法律学習の肝と心得て、授業に勤しむ日々です。



多様性を受容するデザイン提案の試み

日本には「高齢者、障害者、妊産婦、けが人などの移動や施設利用の利便性や安全性の向上を促進」を趣旨とする『バリアフリー法』があり、2,000㎡以上の不特定多数の人が利用する建物等を新築や増築等する場合は、この法律の基準を遵守する必要があります。そのため日本のまちや建物は、バリアフリーが行き届いています。

一方で、基準のみでは解決できないことも多くあります。「視覚障がい者の外出時の状況」を例に見ると、特に外出先のトイレ内で迷う人が多いことがわかりました。現在の基

準には、トイレ入口からトイレブースや小便器までの点字ブロックによる誘導は求められておらず、「空きトイレブースがわからない」や「手洗い場や出口がわからない」という人も少なくありません。これらの課題解決と併せて、多様なトイレ利用者にとっても歩行に影響を与えない「誘導ライン」を共同開発し、実証実験として現在、鳥取市内の商業施設のトイレ内に設置しています(写真1)。

私の研究室のテーマは『多様性を受容する都市・建築空間の提案』を目的とした研



環境学部
老田 智美 准教授

専門 建築計画、福祉のまちづくり、建築ユニバーサルデザイン

究」です。その過程において、多様な人を知る力や多様な意見を聴く力が求められます。これらの力を養う一環として、実証実験中の商業施設の来店者を対象に、『トイレ内誘導ラインの印象評価アンケート調査』をゼミ生が調査員となり実施しました(写真2)。

ゼミ生たちはより多くの回答を得るために、個々で考え様々な工夫をしました。文字が見えにくい方には質問を読み上げたり、調査協力のために沢山世間話をしたり等々。回答数を得る以上に大きな成果を得ることができました。



▲実証実験中の誘導ライン(写真1)



▲イオンモール鳥取北でのアンケート調査の様子(写真2)

国際交流プログラム

本学では、海外大学との交流協定に基づき、様々な学生交流プログラムを実施しています。海外の学生との交流や歴史・文化体験は、語学力や国際感覚を磨くだけでなく、視野の広がりや自己成長のきっかけとなっています。

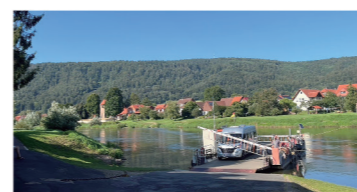
詳しくはこちら!



カッセル大学(ドイツ)への語学研修プログラム

本学とカッセル大学は、両大学の教育・研究などの分野における学術的文化的交流の発展を目指し、2019年4月に覚書を締結しました。

カッセル大学はドイツの中央部にあたるヘンセン州・カッセル市に位置し、1971年に設立されたドイツでは比較的新しい州立大学です。学生数はおよそ24,000人で、特に環境工学に長けており、学部は土木工学、建築・都市計画・ランドスケーププランニング、経済学などの学部があります。



▲カッセル市の街並み

本研修プログラムは、カッセル大学で、ドイツのツーリズム、産業、再生エネルギーなどのテーマを経営と環境の両側面から英語で学び、専門的な内容を英語で理解し、発信する力を培うことを目標としており、参加に当たっては英語中級レベル程度以上(CEFR B1レベル程度から)を対象とした、海外短期語学研修プログラムです。プログラム期間中は、ドイツのご家庭にホームステイし、カッセル大学における授業のほか、ドイツの企業等への視察などフィールド演習にも参加します。

2024年度は、8月下旬から9月下旬までの約3週間のプログラムに、本学の学生8名が参加しました。



▲フィールド演習での一コマ

参加した学生の声



英語をコミュニケーション手段の一つとして使い、環境の分野で活躍できる人になれるように英語と環境学どちらも力をいれて今後の大学生活を送りたい。



動物への育成環境等への配慮に加え、施設屋上に設置された太陽光パネルによる太陽光発電、家畜から排出されるバイオマスを活用したバイオガス発電設備等を用いて行う再生可能エネルギー利用による牧場の経営・エネルギーの生産といった意識・政策を新たに学ぶことができた。



様々な文化を学んだり体験することの楽しさを知ることができ、もっと世界中の文化を体験している人々と共有したいと思うようになった。今後も探求心を忘れず様々なことに挑戦していきたい。



今回の短期留学の経験を活かしてどんなときも失敗を恐れずに何事にも積極的にチャレンジし続けていく姿勢・他人の意見や考えを尊重する姿勢を持ち続けていこうと思った。



授業も頑張りました!



多くの素晴らしい出会い!

本学の語学留学プログラムは、他にも・・・

アメリカ	オーストラリア	
カナダ	韓国	中国

の大学への研修も設けています。



トリニティウエスタン大学(TWU)副学長が来学されました

2024年12月12日、本学と国際交流協定を締結しているカナダ・トリニティウエスタン大学(TWU)のフィリップ・レイヤード副学長が来学し、学長への表敬訪問や本学学生たちへのレクチャーなどを行いました。本学では、TWUで英語の4技能を学べる短期留学プログラムを設けており、今年2月には8人の学生が参加しています。





就職支援 2024年度 就職結果速報



内定 国立研究開発法人
水産研究・教育機構(技術職)

環境学部
鈴木 駿平さん (宮城県出身)

就職について

Q 内定先の仕事に興味を持ったきっかけは何ですか？

元々魚や水産分野に興味があったことや、内定先にゼミのOBが所属しており、在学中のインターンシップで実際に現場を体験したことが興味を持ったきっかけです。

Q 就職活動を振り返って公立鳥取環境大学、鳥取で学ぶことの良さは？

環境大学は環境という広い分野を横断して学ぶことができます。専門分野のみならず、周辺分野も学ぶことが重要であると実感しました。また、生き物が好きな私としては、構内や帰り道で気軽に生き物と出会う自然の豊かさにも驚きました。

Q 本学の就職支援で役立つ制度はありますか？

特に就職支援センターを利用しました。以前は面接に苦手意識を持っていましたが、何度も面接練習をしていただき、フィードバックをもとに少しずつ修正して本番へ臨むことができました。

Q 学んだことを今後の仕事にどのように活かしていきたいですか？

授業やゼミを通して、現場の問題を解決するためには様々な分野の知識を取り入れ、多角的に考える必要があることを学びました。大学での学びを生かして4月から頑張りたいと思います。

大学について

Q 本学で楽しかったことを教えてください

生物部の活動です。部内には動物の交通事故を調べている先輩、授業終わりに近所の川へ魚を調べに行く部員など個性豊かなメンバーがおり、話をする中で自分が知らなかった様々な分野に興味を持つことができました。

Q 大学時代に学ぶべきこと、体験すべきことは何ですか？

何事にも興味を持つことと持って取り組むことが大切だと思います。サークルやゼミ活動の中で様々な人に触れたことで、在学中に自分自身の視野が広がっていくことを実感しました。また、この時にできた人との繋がりが自身を助けることもありました。



内定 株式会社直島文化村
(ベネッセハウス)

経営学部
木村 心優さん (香川県出身)

就職について

Q 内定先の仕事に興味を持ったきっかけは何ですか？

地元香川県での就職を考える中で、私自身が好きな英語を学べると同時に地域貢献ができる職に就きたいと考えていました。直島は瀬戸内芸術祭の舞台の一つであることから、国外から多くの観光客が訪れます。小さな島にもかかわらず多国籍の中で働ける環境が私にピッタリだと感じました。

Q 就職活動を振り返って公立鳥取環境大学、鳥取で学ぶことの良さは？

元々、地域活性化に興味があり、大学では地方にしかない魅力について考えたいと思い、環境大学へ進学しました。鳥取のローカルな目線を学ぶことができました。

Q 本学の就職支援で役立つ制度はありますか？

私自身は4年生の時に就職支援センターで志望動機書などの添削を利用しました。

Q 学んだことを今後の仕事にどのように活かしていきたいですか？

私の仕事は接客がメインの仕事になると考えています。学生生活の中で身に付けた英語力を活かし、国内外の様々な人との交流を楽しみながら仕事をしたいです。

大学について

Q 大学時代に学ぶべきこと、体験すべきことは何ですか？

大学生活は、人生の中でも自分のやりたいことにしっかりと取り組める期間だと思います。海外のドラマなどが好きで海外に行く目標があり、アルバイトを頑張って、一か月間の留学や海外旅行でたくさんの国を見ることができました。その経験は結果的に就活にも繋がりました。

Q 就活時の心構え

就活の時期になると周りとは比べ焦りがちですが、一番大切なことは自分と向き合い、自分を深く理解することだと思います。働く上で重視する基準や自分の価値観を大切にすることが、最良の道につながると思います。



防災サークル mu-TUES

私たち防災サークル mu-TUESは、「防災といわない防災」をモットーにして活動しています。学内での活動のみならず、公民館でのイベントや地域の防災訓練にも積極的に参加し、地域の方々との交流を深めています。

12月初旬には、防災サークルとして初めての主催イベント「防災アドベンチャー」を開催しました。ご参加いただいた方には「楽しかった」「学びが多かった」といった声をいただくことができ、サークル活動の新たな一歩となりました。今後も多くの年代の方が楽しみながら学べるものを目指して取り組みたいです。

活動頻度は不定期ですが、イベントが近づくと活発になります。他のサークルとの掛け持ちも歓迎しており、気軽に参加できる雰囲気です。防災に関心のある方、地域の方と交流したい方など、少しでも興味をお持ちの方は、ぜひ私たちと一緒に活動してみませんか。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

部長: 細野 颯志 (環境学部 1年)

クラブ&サークル活動・資格取得



音創部

私たち音創部は主に月に1回、大学の体育館もしくは多目的室でライブ活動を行っています。音創部は現在、100名以上の部員が在籍しており、現役生のみならず、OBとの関わりも深く、大勢の人と関わり合って活動しています。年に一度行っているOBライブがその一例です。音創部は、音楽を楽しむだけでなく、ライブやバンドを通してたくさんの人と繋がり、人生をより豊かにしてくれる場所です。

私たち、音創部の特徴として挙げられるのが、部の名前とコンセプトです。一般的にバンド活動を行うような部活動は「軽音楽部」とされることが多いですが、私たち音創部は「音を創る」と書きま。これは、ジャンルレスな音楽を創造することを示しているのみならず、個性豊かな部員をも表現されています。

私たちの活動は、学内のみならず、県内外のライブハウスなど様々な場所で行われています。応援のほどよろしくお願いいたします。

部長: 黒田 凌也 (経営学部 3年)

就職支援センター



就職アドバイザー
中島 靖雄

就職支援センターでは、学生一人ひとりに寄り添い、不安や疑問を解消しながら、希望する就職先への内定を目指し、就職活動のサポートを行います。1年次の進路ガイダンスや資格・検定の取得支援に始まり、3年次には全学生と個人面談を行うなど、本学ならではの手厚いバックアップを実施しています。

Support 1 きめ細かなガイダンスと面談

就職ガイダンス

就職活動の基本を指導します。不安や疑問を解消し、積極的に就職活動に取り組めるようにします。

全3年生対象の個人面談

本学では3年生全員と個人面談を行います。一人ひとりに併走し、個々の希望やみんなの前では話せない悩みなどに耳を傾け、適切なアドバイスをします。

就職アドバイザー

就職アドバイザーを配置し、進路全般に関する相談、求人情報提供、履歴書・エントリーシートの添削、面接練習を行います。

説明会・相談会

学内合同説明会や個別企業説明会などを開催。企業・求人情報、インターンシップ受入情報などを得る機会を設けています。さらに、卒業生ネットワークを整備しており、OB・OG就職相談会も実施しています。

Support 2 就職活動へのサポート

就職活動への経済的な支援

鳥取県外や地元での就職活動を積極的に行えるよう、交通費や宿泊費の一部を助成する制度があります。

就職活動支援システム「TUESキャリアナビ」

本学学生向けの求人・インターンシップ情報、学内で開催する就職ガイダンスなど、就職活動に欠かせない情報が満載。先輩達の就職活動についてもまとめており、成功の秘訣を知ることができます。

Support 3 公務員試験合格や資格取得を目指す

公務員試験対策講座・資格取得支援講座を開講

公務員試験対策講座や資格取得支援講座を学内で開講しています。講座費用の一部を本学がサポートし、学生の経済的な負担を軽減しています。さらに、合格者への表彰制度もあります。

学生表彰制度(資格・検定等)

本学が定める資格・検定に合格した学生を対象に、学長が表彰するとともに、副賞を授与します。



資格取得



経営学部 3年(和歌山県出身)
木下 優輝さん

簿記2級・FP2級

合格!

3年生になり、就職を意識し始めたことが資格取得のきっかけです。元々、金融関係への就職を考えており、会計を扱う川崎先生のゼミに所属していることから、まずは日商簿記2級の勉強から始めました。授業だけでなく、柳先生が主催する勉強会にも参加して取り組んだ結果、合格することができました。簿記や会計に取り組んだのは、環境大学へ入学してからですが、授業やゼミで勉強しているうちにだんだん面白さが分かってきました。FP(ファイナンシャルプランナー)は柳先生から助言をいただき、受験を決めました。夏休みに市販のテキストを用いて、2週間(1日7時間ほど)の短期集中の勉強で無事に合格できました。自分の選択肢を増やすためにも、他の資格試験にも挑戦していきたいです。



韓国語能力試験 (TOPIK) 6級

合格!



環境学部 4年(大分県出身)
角 真珠さん

韓国語習得のきっかけは、私が好きなK-Popや韓国ドラマに興味を持ったことです。韓国語は大学1年生のときから興味があり、独学で聞く、話すは少しできるようになりましたが、この頃、SNSで韓国の知り合いとやり取りするために読み書きが必要になりました。2年次から始まる韓国語の授業で読み書きを含む基礎的な内容を学ぶことができ、私自身にとってとても良いタイミングで学ぶことができました。3年次には大学が募集していた日韓交流プログラムに参加しました。韓国旅行に行っても意外と韓国語を使う機会が少ないのですが、この交流では同じ年代の韓国の学生と日常生活や流行について同じ目線で話せたことが何よりも嬉しかったことを覚えています。韓国語の学習は私の生活の一部としてこれからも続けていきたいと思っています。



プロジェクト名

クレイメーションを作ろう

皆さん、クレイメーションとは何か、ご存知ですか？粘土で作成したキャラクターを少しずつ動かして写真を撮影し、撮影した写真をバラバラ漫画のように再生して動画としたものです。有名なところでは「ニャッキ！」や「ひつじのショー」などがあります。通常のアニメーションのように、高速に画像を切り替えることで被写体の動きを再生するものです。クレイメーションでは、被写体となるキャラクターを粘土で作成し、別に準備した背景の中で動かして写真を多数撮影し、それをソフトで繋ぎ合わせて映像データに編集します。この作業は大変なものになると思いませんか？どんなキャラクターを登場させてあらすじはどうするのかということから始めて、誰がいつどんな作業をするのか、撮影は誰がするのか、映像編集は誰が行うのか、スケジュールに遅れはないのか、期日に間に合うのか、出来上がった映像の品質は十分なものかなど、心配しなければいけないことがたくさんあります。このテーマでは、これらのことすべてのことを自分たちで行なってもらいます。

もちろん、途中で起こるハプニングにも自分たちで対応してもらいます。クレイメーションの制作に関しては、教員は口出しをしません。この大変な作業が学生だけで行うことにより、①計画立案能力、②進捗管理能力、③活動を振り返る力、④チーム内での自分の役割を自分で見つける力、⑤自分の頭で考えて行動する力を養うことを目的としています。これらの能力を楽しく養うために、クレイメーションを作るという作業を題材にしているのです。そのため、クレイメーションの出来栄については評価の対象としていません。作り上げることを重要視し、どれだけ先に上げた①～⑤の能力を身につけることができたかを重視しています。これまでの先輩を見ていると、能力を身につけたらと思う学生さんたちの映像は面白いですよ。今年はどんな映像を見せてもらえるのか、楽しみにしています。



プロジェクトアドバイザー 経営学部 今井 正和 教授

プロジェクトメンバー プロジェクト研究2〈環境学部〉大畑 柊翔、上條 奏、北原 桜、實本 美歩、山根 極
 〈経営学部〉安部 圭姫、松田 龍哉、竹内 結彩、森元 敦也
 プロジェクト研究4〈環境学部〉中井 晴、秋藤 駿介、竹岡 七瀬、田村 幸之助、森山 結奈
 〈経営学部〉川本 晴仁、澤田 晃世、塩崎 由結、水野 理子

環謝祭

第24回環謝祭を開催しました

2024年10月26日、27日に本学で第24回公立鳥取環境大学大学祭「環謝祭」を開催いたしました。今年度のテーマ「開化 Bloom～若き盛りで広げる景色～」を掲げ、学生たちが多種多様なブースや企画を立ち上げて会場を盛り上げました。2日間を通して、のべ1769名にのぼる方々に来場いただき、委員のみならず運営に携わった参加者全員に活気と笑顔があふれる環謝祭となりました。

学生メッセージ

第24回環謝祭へご参加いただいた皆様、誠にありがとうございます！今年は新たな企画に加えて例年以上の模擬店・フリーマーケットの出店数で皆様をお迎えでき、委員含め運営に協力していただいた方々には感謝しかありません。来年度の開催へ向けて一歩ずつ精進してまいりますので、応援とご期待のほどよろしくお願いいたします！

大学祭実行委員会 佐賀 真伍 委員長 | 大学祭実行委員会 山寺 朝水 副委員長



音劇部によるステージライブ



本学の情報教育プログラムが文部科学省の認定を受けました

本学の情報教育プログラムが文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル及び応用基礎レベル)」(※1)の認定を令和6年8月27日に受けました。

同認定に向けてカリキュラムの整備、実施、申請の中心となったAI・数理・データサイエンス教育研究センターの齊藤センター長は「この認証により本学のプログラムが評価されたことはセンター長として嬉しく思います。今後ともセンター教員が一丸となり、学生のための教育に力を入れていきたい。」と決意を述べています。

本学ではデジタル人材の育成に力を入れると共に、教育プログラムの更なる改善を目指していきます。

当プログラムの詳細



(※1)「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」とは、デジタル時代の「読み・書き・そろばん」である数理・データサイエンス・AIに関する、大学等の正規の課程の教育プログラムのうち、一定の要件を満たした優れた教育プログラムを文部科学大臣が認定/選定することによって、大学等が数理・データサイエンス・AI教育に取組むことを後押しする制度です。



出典:文部科学省HP

中央大学との共同フィールドワークを実施しました

本学と中央大学は、連携協力協定に基づく交流事業として、毎年共同フィールドワークを実施しています。今年度は、鳥取県で8月26日から28日の3日間、「過疎地の暮らしを知らう～漁村と山村のフィールドワーク～」(担当:経営学部 倉持裕彌 准教授)をテーマに実施しました。参加学生たちは県内の漁村と山村を訪れ、地域社会の生活環境や過疎対策事業について学びました。また、12月14日に東京都(中央大学多摩キャンパス)で開催された中央大学FLP環境・社会・ガバナンスプログラム期末成果報告会において、学修成果を発表しました。

今後も本学では、学生の成長を目指し、様々な事業に取り組んでいきます。



▲フィールドワークの様子

本学学生が「Web×IoTメイカーズチャレンジPLUS」に参加し、特別賞を受賞しました

「Web×IoTメイカーズチャレンジPLUS」は、学生や初学者エンジニアを主な対象としたIoTシステム開発のスキルアップイベントです。

当イベントに「AI・数理・データサイエンス実践演習B」を受講する学生が参加しました。11月に講習会、12月に「農林水産業×IoT」というテーマでチーム毎にIoT作品のハッカソン(※)が開催され、寺田桐子さん(環境学部2年)の所属チームと小林碧志さん(環境学部3年)の所属チームが、それぞれ特別賞を受賞しました。

※特定のテーマに対し、エンジニアやデザイナー、プログラマーがチームを組み、短期間で集中して開発を行うイベント。ハック(hack)とマラソン(marathon)を組み合わせた造語で、アイデアや技術の優秀さを競う。

受賞作品の概要

【作品名】 AgriCare Watch (寺田さんのチーム)



【作品の概要】

農業の課題である高齢化や人手不足、事故対策として、安全で初心者にも使いやすい農業支援システムを開発。

【作品名】 サイレントシールド (小林さんのチーム)



【作品の概要】

農業・林業の課題である獣害対策として、指向性スピーカーを使った害獣追い払い装置を開発。

学生EMS委員会がウォーターサーバーを設置しました

学生EMS委員会が、ペットボトル(プラスチック)の使用量削減(マイボトルの利用増進)による脱炭素化の推進を目的に学内に2台のウォーターサーバーを設置しました。

2024年7月1日から8月6日までウォーターサーバーの利用実証試験を行ったところ、目標を上回る利用実績が得られたことから、10月に本設置となりました。また、同委員会メンバーがデザインしたパネルも取り付けました。



パネルデザインについて



◀大学のシンボルであるヤギと建物のツタ、ウォーターサーバーをモチーフに、水を通して大地や生命が潤うことを表現。

▲ペットボトルからマイボトルへの切り替えとカニの脱皮を表現。



スポーツ大会

2024年12月14日にクラブ主催のソフトバレーボール大会がありました。有志の学生や教職員が参加し、一緒に汗をかきました。



▲当日の様子



▲教職員チームも奮闘

そのほかのニュースはこちらからご覧いただけます▶



鳥取環境大学同窓会は創立20周年を迎えます

2025年度で鳥取環境大学同窓会は創立20周年を迎えます。環謝祭に合わせて、20周年記念事業(某先生の記念講演、懇親会など)を鋭意計画中です。夏頃、卒業生向けに案内ハガキを発送しますので、学友とお誘い合わせの上ご参加ください。

同窓会情報はこちら



編集チームからのひと言

Sさん 岩石・鉱物好きが高じて、2024年は登山にも出かけるようになりました。鉱物の知識を増やしつつ、体力づくりにも頑張っています！

Tさん 最近、娘たちとピザ作りを楽しんでいます。様々な食材の組み合わせで、味の開発をしています。

Oさん 出勤時に構内の残り蛾を観察するのが冬の楽しみです。若葉台では約700種の蛾が確認されています。

Kさん 今年は外に出る！を目標に週1の散歩を始めました。いつの間にかウィンドショッピングが始まり、ほしいものリストが増えてしまいました。

Nさん 気づけばもう春で、年々時の流れが早く感じる今日この頃。仕事も趣味も、もっと楽しみながら取り組んでいきたいです！

Tiさん 12月のスポーツ大会に教職員チームで出場し、楽しいひとときを過ごしました！筋肉痛に苦しみました。次回はもっと準備して臨みます！

詳しくは各お問い合わせ先へご連絡ください

公開講座



公開講座 2025

本学では一般の方を対象とした公開講座を実施しています。オンデマンド動画配信もありますので、ぜひご視聴ください。(動画は随時更新中)

● 講座情報や動画視聴はこちらから

お申し込みフォーム

公立鳥取環境大学 公開講座

<https://www.kankyo-u.ac.jp/about/alliance/seminar/>



お問い合わせ 研究交流推進課

TEL 0857-38-6704

E-mail event@kankyo-u.ac.jp

KANラジ 動画配信中

環境大から、あなたへ!

知識は宝だ! 環境大の気軽に学べるラジオ

KANラジ

KANラジとは?

本学の教員が自身の専門分野や研究についてラジオペルソナリティとトークを展開する、気軽に学べるラジオ番組です。

FM鳥取で放送されたKANラジの収録風景を本学公式YouTubeチャンネルからご覧いただけます。

本学教員の、普段なかなか聞くことのない話をぜひご視聴ください!

KANラジ再生リスト



NEW 第7回「建物の老朽化と所有者の高齢化、マンションを巡るふたつの老い」

経営学部 中山 実郎 教授

第8回「南極とサンゴと私」

環境学部 徳田 悠希 准教授

寄付金のお願い

〈公立鳥取環境大学基金〉

学生の修学・生活の援助や教育活動の支援及び教育研究施設・設備等の整備に活用します。

● 詳細はこちらから

<https://www.kankyo-u.ac.jp/about/donation/>



〈ふるさと納税〉

令和7年2月よりふるさと納税を活用した大学への取組みに対する支援ができるようになりました。

● 詳細はこちらから

<https://soko.rms.rakuten.co.jp/f312011-tottori/9002/>



お問い合わせ 総務課財務係

TEL 0857-38-6705

E-mail zaimu@kankyo-u.ac.jp

2024年度 学部・大学院 学位授与式

【日時】2025年3月19日(水)

9:30 / 受付開始

10:00 / 開 式

13:00 / 終了予定

【会場】とりぎん文化会館梨花ホール (鳥取県鳥取市尚徳町101-5)

2024年度公立鳥取環境大学 学部・大学院学位授与式を右記の通り執り行います。開催日が近づきましたら、詳細をホームページでお知らせしますので、ご確認の上、ご出席ください。

〈お問い合わせ先〉

公立鳥取環境大学総務課

TEL:0857-38-6700

2025年度 前期開始日程

- フレッシュアップセミナー・前期ガイダンス：2025年4月4日(金)～
- 履修登録期間：2025年4月3日(木)～4月7日(月)

授業料の納入について

授業料の納入期限は、前期5月31日、後期11月30日です。

納付書の送付は、納入期限の概ね1か月前になるので、よろしくお願ひします。



決算報告

2023年度の決算の概要は次のとおりです。詳しくは大学のホームページでご確認ください。

https://www.kankyo-u.ac.jp/about/announcement/report_since2012/



損益計算書

収 益		
項目	金額(円)	割合(%)
● 運営費交付金収益	861,182,036	36.9%
■ 入学金収益	87,100,400	3.7%
■ 授業料収益	674,631,200	28.9%
■ 検定料収益	15,325,800	0.7%
■ 受託・共同研究・受託事業等収益	20,501,907	0.9%
■ 補助金等収益	87,746,960	3.8%
■ 施設費収益	4,703,702	0.2%
■ 寄附金収益	11,269,989	0.5%
■ 財務収益	2,909,309	0.1%
■ 雑益	20,664,667	0.9%
■ 臨時利益	546,705,888	23.4%
合計	2,332,741,858	100%

収 益

大学の収益は主に、設置者(鳥取県及び鳥取市)からの運営費交付金(36.9%)と学生からの入学金及び授業料の納付金(28.9%)です。

貸借対照表

資 産		
項目	金額(円)	割合(%)
■ 土地	3,514,650,000	36.2%
■ 建物・構築物、工具器具備品他	4,704,383,461	48.5%
■ 図書	415,201,045	4.3%
■ その他有形固定資産	23,042,176	0.2%
■ 無形固定資産	21,711,440	0.2%
■ 有価証券等	99,801,910	1.0%
■ 現預金	793,549,804	8.2%
■ 未収入金等	130,175,140	1.4%
合計	9,702,514,976	100%

資 産

大学の保有する資産はその大部分が土地・建物等(84.7%)です。また、その他の主な資産として有価証券・現預金等(9.2%)、図書(4.3%)となります。

負債・純資産

負債・純資産		
項目	金額(円)	割合(%)
■ 固定負債	16,866,600	0.2%
■ 流動負債	322,675,030	3.3%
■ 資本金	8,336,830,000	85.9%
■ 資本剰余金	△255,748,506	△2.6%
■ 利益剰余金	1,281,891,852	13.2%
合計	9,702,514,976	100%

負債・純資産

資本金は設置者から出資(鳥取県50%、鳥取市50%)。また、固定負債は全て長期繰延補助金となります。

※印刷した冊子におきまして以下の長期繰延補助金の説明文に誤りがございました。お詫びして訂正いたします。

※長期繰延補助金：補助金により固定資産を取得した場合に、当該定科目に振り替え、当該資産が費用化(減価償却費)される時点において補助金収益等として収益化する会計処理のための勘定です。

公立鳥取環境大学 公式SNS

お知らせや ニュースを発信中!



@kankyo_U



@kankyo-u



公立鳥取環境大学 公式チャンネル

